



旅のおとも

2017.2.

株式会社あんしんトラベル

春の訪れが待ち遠しく、吹く風や木々の枝先に春の訪れを探してしまう今日この頃です。皆さまはいかがお過ごしでしょうか？先日、弊社のパンフレットをご覧いただいたお客さまからお電話いただき、施設にご入居中のお父様のご旅行について実際にお会いしてお打合せをさせていただきました。その時に息子様から伺ったお話です。いつものようにお父様に会いに施設に行くと、お父様が「もう、旅行なんて行けんとやるなあ・・・」と何気なくつぶやいたそうです。そこで息子様がスマホで検索し弊社を見つけさせて、「こういう会社があるんだってよ！」とスマホの画面で弊社のホームページを見せたら、「父の顔がぱ〜っと、なんて言うかなあ、明るくなったんですね。」と、ちょっと驚いたように、でも嬉しそうにお話してくださいました。それを聞いてわたしも、すごく嬉しくなって、そして改めて「旅の力」ってすごいなあ、と感じました。人がなにか行動するときって、まずは「気持ち」が動いてからですものね。そんなお客様の「気持ち」を大切にしたい、と改めて思いました。それにしてもスマホの画面だけで・・・お父様、すごい！ですね♪

(理学療法士：高木)



さて今号では、はじめてのお客さまからお電話やメールでよくいただくご質問と、その回答(弊社の回答・考え方など)をご紹介します！ご参考までにご覧いただくと嬉しいです。

どうやってお風呂に入っているんですか？

いちばん多く頂くご質問かもしれません。

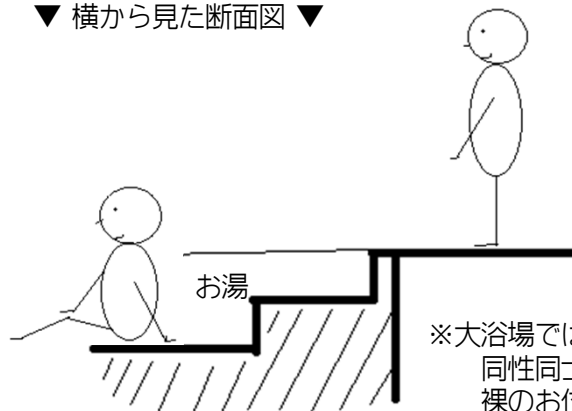
旅館・ホテルの浴槽には、さまざまな大きさやタイプ、形状があり、また、それらの設置方法・お客様の身体状況によっても、使い勝手や入浴の仕方は大きく変わるものです。旅先でのお風呂の設置方法・タイプ別にご紹介します！

🌀 その① 埋め込み型のお風呂

※簡易的な図になっております。ご容赦ください。



▼ 横から見た断面図 ▼



※大浴場では同性同士、裸のお付き合いでお手伝い(^^)／



床面と同じ高さまで浴槽が埋め込まれているタイプの浴槽。旅先では大浴場に多く取り入れられている印象です。浴槽の入り口まで浴用車いすや付添歩行で行き、手すりを使いながら浴槽に入っていきます。このとき、階段を下に降りていくような状態になるので、経験則上、自力または、お付添がいれば立てる方、そして、段差(1~2段)を昇り降りできる方がご利用になられることが多いです。手・足・お尻などを使いながら出入りします。(※全ての方が前述のとおりというわけではなく、お身体の状態によって付添スタッフを2名体制にする等、臨機応変に対応させていただいております。)

2017.2.

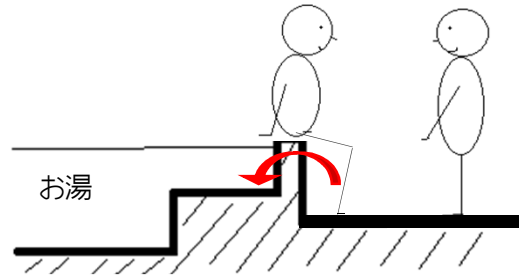
株式会社あんしんトラベル

その② 半埋め込み型のお風呂

※簡易的な図になっております。
ご容赦ください。



▼ 横から見た断面図 ▼

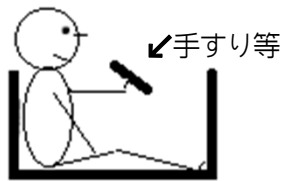


浴槽の高さ1/3くらいを床に埋め込み、床面から40センチ程度を立ち上げて設置するタイプのお風呂。貸切家族風呂や時には大浴場などでも設置されています。浴槽の入り口まで浴用車いすや付添歩行で行き、浴槽のフチに一度腰かけて、座った状態で足をまたいで入ります。こちらも、手・足・お尻などを使いながら出入りします。浴槽のフチに座れることで出入りの際に体が安定するので、埋め込み型のお風呂よりも入りやすい、といったご感想を多く頂きます。

その③ 据え置き型のお風呂

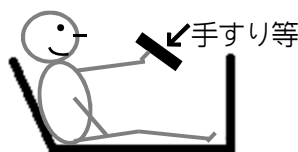
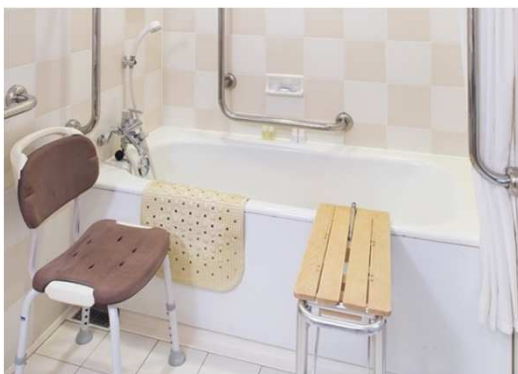
床面に浴槽を据え置く方法で設置してあるのが据え置き型。

床面から50~60センチくらいの高さがあるので、立った状態でまがず、浴槽のフチに座れるスペースがある場合にはフチに、浴槽のフチが狭い場合には、スライドボードや専用いす等を利用して座った状態で足をまたいで入ります。



<和風タイプ>

左図のような和風タイプは、膝が伸びきらず足を突っ張ることができるので、座位が安定します。深さもあるので肩まで浸かって温まります。適宜、浴槽内のいすや浴槽内で滑り止めマットを使用します。



<和洋折衷タイプ>

左図は和洋折衷タイプの浴槽。

肩まで浸かることができ、膝も適度に伸ばせます。浴槽の形状により、身体が斜め後ろに倒れてしまうため、和風タイプよりも立ち上がりが難しかったり、小柄な方は足を突っ張りにくく、座位が安定しないことも。そのような場合には、浴槽内のいすや浴槽内で滑り止めマット等を使用することで出入りし易くなります。

※その他、リフト等を利用できる温泉もあります。

紙面の都合上、お風呂だけのご紹介になってしまいました。
その他、ご不明な点などございましたらお気軽にお尋ねください！